外国語活動学習指導案

単元名「This is for you. 」

令和元年11月15日(金) 14:00~14:45 図書室 3年1組 男子10名 女子14名 計24名 指導者 新井 有希子 ALT マシュー・ウェン

| 単元の構想

1 身につけさせたい資質・能力および児童生徒の実態

オースリとこに、茶茶 10.7 いない 万里工化・八八個		
	身につけさせたい資質・能力	児童生徒の実態
コミュニケーションへの関心:意欲・態度	・相手に伝わるように工夫しながら、自分の思いを 伝えようとする態度・渡す相手に伝わるように工夫しながら自分の作品 を紹介する態度	・これまでの学習を通して、ジェスチャーやアイコンタクトなど、会話の中でのコミュニケーション方法に気を付けることができる児童が多くなってきている。 ・英語で話すことにまだ自信を持っていない児童も多く、「ゆっくり話す」「はっきりと言う」など、相手が聞きやすい話し方を意識できている児童は多くない。
外国語への慣れ親しみ	・色や形の言い方、友だちの欲しいものをたずねる 言い方、自分の欲しいものを伝える言い方への慣れ親しみ	・これまでの学習を通して、9割以上の児童が色や形は英語で言うことができる。 ・自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりするときに、自信を持って英語を話せる児童は3割程度である。
言語や文化 に関する気づき	・色や形、欲しいものをたずねたり伝えたりする言い 方のやり取りを通した、日本語と英語の音の違い への気づき	・ほとんどの児童がチャンツや歌を楽しみながら活動し、日本語と英語の音の違いに気づけている児童もいる。

2 月標

1年生にメダルを渡す活動を通して、欲しいものをたずねたり答えたりすることにより、相手に伝わるよう工夫しながら、自分の思いを伝える表現に慣れ親しむ。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・相手に伝わるように工夫しながら、自分の思いを伝えようとしている。

【外国語への慣れ親しみ】

・欲しいものをたずねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。

【言語や文化に関する気づき】

- ・色や形、欲しいものをたずねたり伝えたりする言い方から、日本語と英語の音の違いに気づいている。
- 4 単元計画および指導方針(全6時間)
 - ※別紙参照

|| 本時の学習

1年生にあげるメダルのパーツを集める活動を通して、積極的に欲しいものをたずねたり答えたりする表現を用いてコ くねらい> ミュニケーションをする。

学習活動 指導上の留意点 1 あいさつをし、天気・日付・曜日を聞き、ウォームアップをする。 ・ウォームアップでは、本時の表現に合った活動を行うこと (5分) で、楽しく安心して学習できる雰囲気づくりをする。 ・本時のめあてをつかむ場面では、前時までの学習を振り 2 本時のめあてをつかむ。(5分) 返りながら、子どもの言葉でめあてを設定する。 前時の学習の振り返りや、JTEとALTのやり取りを通して、本時の ·JTEとALTのデモンストレーションを見せ、児童が活動の見 学習のめあてをつかむ。 通しを持てるようにし、またやりとりの中でコミュニケーション <本時のめあて Today's goal> ポイントを意識するような例示をする。(ジェスチャーや相づ メダルのパーツ集めをしよう。 ち、話し方の工夫など、良い例を見せたり、良くない例も 見せたりし、改善点を子供が考えられるようにする。) ・センテンスピクチャーカードを使って、言語を可視化する。 3 前時までの表現を復習し、新たに欲しい色をたずねる言い方 ・児童が楽しく、単調にならずに練習ができるよう、表現の 練習には、リズムボックスを使う。 に慣れ親しむ。(7分) (1) What do you want?, How many? , please.の言い方をALT ・JTEとALTのデモンストレーションの中で、JTEがどんなことに 困っていたかを問い、本時の活動にはどんな表現が必 と復習する。 (2)What color?の言い方を知り、友だちやALTとやり取りをする。 要になるか、児童も一緒に考えられるようにする。 (例) A: What color? ・練習しながら机間支援をし、表現への慣れが不十分な B: Yellow, please. 児童に対しては個別指導を入れる。 活動の流れは、数名の児童にデモンストレーションをして もらい、教師からは極力少ない説明で、活動の内容が 4 メダルのパーツ集めをする。(20分) A: What do you want? 把握できるようにする。 B: Star. please. ·ALTは、児童の活動の様子を見ながら個別支援をする。 A: How many? ·JTEは、個別支援をしつつ、児童の活動の様子をよく観察 し、中間評価に活かせるようにする。 B: Three, please. A: What color? ※ は、新出表現 ・自分の思いをより分かりやすく伝えられるように、中間評 B: Yellow, please. 価を行い、上手にやりとりできている児童を紹介する。 中間評価 ・中間評価では、友だちの発表を見て、どこが良かったか 児童に問いかけ、全体で共有できるようにする。(Hello. A: Hello.(ジェスチャー) B: Hello.(ジェスチャー) Here you are.などのあいさつが言えていた、ジェスチャーを A: What do you want? 使っていた、Two yellow and three red, please.のようにまとめて 言えていた、など。活動の様子で取り上げる内容は変わ B: Star, please.(\overline{y}_{x} x+++) ※ は、 るが、会話における工夫を意識できるようにする。) A: How many? コミュニケーション ・コミュニケーションポイントカードも提示することで、中間評 ポイント A: What color? 価を、後半の活動に活かせるようにする。 B: Two yellow and Three red, please. 【評価方法】(見取りの方法) A: Here you are. 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 B: Thank you. 自分や友だちが集めたいものについて、たずねたり A:Bye.(ジェスチャー) 答えたりして伝え合っている。 B: Bye.(ジェスチャー (観察・ふりかえりカード) 5 本時の学習の振り返りをする。(8分) ・本時の学習活動を通して英語で言えたこと、友だちと協

・本時のめあてに対して、できたことや分かったことを振り返る。

く振り返り>

☆What color?が少しむずかしかったけど、英語でやりとりをが んばってできた。

☆グループの友だちと協力して、メダルのパーツを集めら れてよかった。

- 力できたこと、自分ががんばったところ、次回はどうがん ばりたいかなどを振り返るよう助言する。
- ・自分を振り返る以外にも、友だちのよかったところや、が んばっていたところなどに気づくことができたら、そうした視 点からも振り返られるように声掛けをする。
- ·言語面からだけではなく、活動の内容面からも振り返って もよいことも確認する。

